

社協だより

第141号

2008.7.1

【編集・発行】社会福祉法人 直方市社会福祉協議会 〒822-0034 直方市山部側筒谷616-145
TEL0949 (23) 2551 FAX0949 (23) 2552 e-mail : nogata-shakyo@fuga.ocn.ne.jp

「おもちゃ図書館のおがた」開設に向け話し合いを行うボランティアのみなさん



もくじ

●おもちゃ図書館のおがた	1	●日常生活自立支援事業	5
●カンテラ	1	●ご寄付	5
●事業報告と決算	2	●よこいと運動会	6
●基本方針・重点推進項目と予算	3	●にこにこ教室	6
●地域の輪	4	●健康相談・認知症相談	6
●図書室	4	●編集後記	6
●登録ヘルパー募集	5		

kantera カンテラ

「おもちゃ図書館のおがた」

子供は、遊びの天才だ。
ここは、障害のあるなしに関係なく、好きなおもちゃで、ワイワイ一緒に遊ぶ場だ。
保護者にとっては、障害がまだよく理解されていない社会での子育ての厳しい状況や、初めての育児の人には、悩みを話しあい励ましあう場である。
気に入ったおもちゃを借りしつかり胸に抱いてボランティアにバイバイして帰って行く。
17名のボランティアが、この楽しい図書館づくりを進めている。各人の個性を活かし手作りで、数と種類を増やしたいが、どんな品が喜んでもらえるか、その知識も学びたいね！修理は得意で管理と消毒をしよう。おもちゃを集めようと言う人もいる。
障害者の社会参加が少ない傾向のなかで「保護者や子供の具合が悪くてでられないのではなく、障害を持つ我が子連れで出るのを気後れしている」と語った母親がいた。ここで遊んだ子供たちは「障害なんて、特別な事ではないよ、友達だもの」と言う事だろう。

平成19年度 直方市社会福祉協議会 事業報告と決算

事業報告

福祉教育・啓発活動

- 地域福祉セミナー(全8回、延べ147名)
- 社協だより・点字版行(3回発行)
- 第32回よこいと運動会(25団体、350名)
- 福祉まつり(21団体、1,000名) など

福祉の地域づくり推進事業

- 配食サービス(独自事業 登録者11名)
- 配食サービス(市委託 延べ1,545名)
- 生活福祉資金(貸付2件)
- 車いす貸し出し(34件)
- 日曜出合いの広場「もちつき会」(40名)
- 歳末見舞品贈呈事業(1,389名)
- 認知症相談(2名)
- 校区社協活動の推進
- おもちゃ図書館設置検討 など

ボランティアセンター運営事業

- ボランティアルームの提供(143件)
- ボランティア活動の登録・斡旋
- ボランティア活動保険料助成(延べ250名)
- 活動資材の整備・貸し出し(22件)
- 直方市ボランティア連絡協議会の支援
- 高等学校「ボランティア講座」の指導援助
- 小学校郊外学習支援(32名)
- 第33回直方ボランティアのつどい(37名)

移動送迎支援事業

- 移送サービス(延べ217名)
- 運転協力員等の研修

障害者相談支援センター一ふらの運営

(直方市・宮若市・鞍手町・小竹町受託事業)

- 相談(延べ1,020件)
- 当事者相談(延べ126名)
- 知的障害者相談(延べ6名)
- サービス利用計画の作成(2名)
- 交流広場「7番地」(延べ708名)
- 交流及び学習(3回、91名)
- 広報誌発行(4回発行) など

地域福祉権利擁護事業

- 金銭管理サービス(2名)

ふくしバスの運行

- ふくしバスの運行(延べ774名)

総合福祉センターの運営

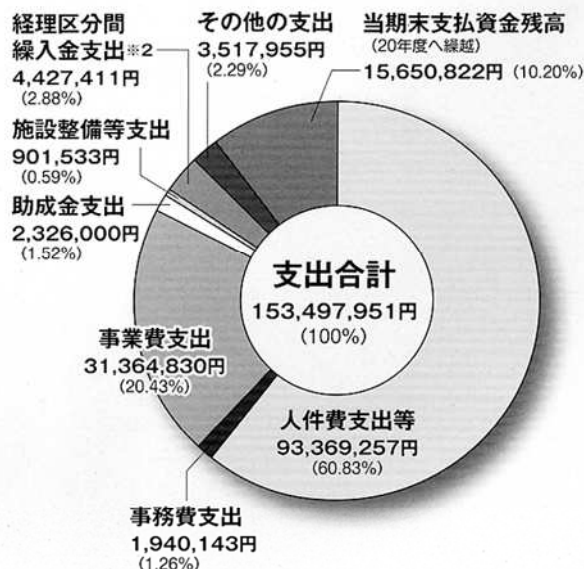
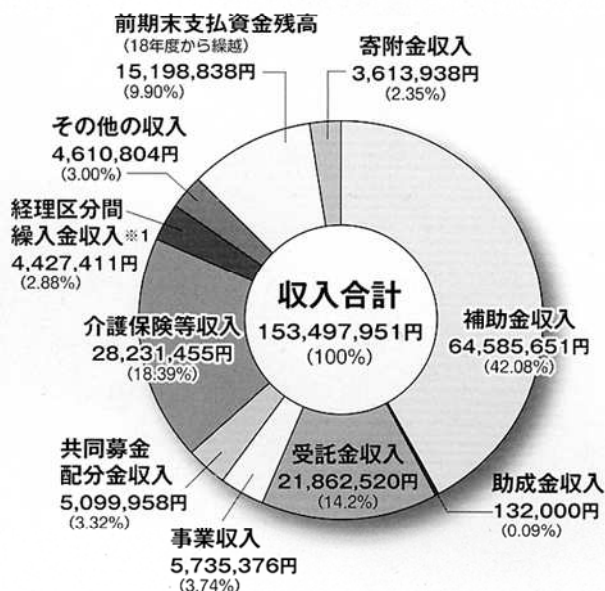
- 一般利用(延べ23,320名)
- 送迎バスの運行(延べ8,930名)
- 健康相談(延べ52件)
- にこにこ教室(648名)
- 趣味の会活動支援
- 夏・秋・冬 演芸大会(189名)

在宅福祉事業

- ケアプランサービス(延べ354名)
- 介護保険事業(延べ261名)
- 介護予防事業(延べ237名)
- 障害者自立支援事業(延べ233名)
- 生活管理指導員派遣事業(延べ177名)
- 要介護認定調査事業(延べ61名)

決算

※1の経理区分間繰入金収入と※2の経理区分間繰入金支出は当会内部における移動



この社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。

平成20年度 直方市社会福祉協議会 基本方針・重点推進項目と予算

基 本 方 針

地域の絆どころか、社会を構成する基礎単位である家族の絆さえも崩れてしまったかのような虐待や「地域の問題は、(行政任せにせず)私たち地域住民でも…」という地域福祉の考え方が、「地域のことは地域(住民)で…」と、もぬけの言葉にすり替えられ、必要な支援を切実に求めてきた当事者やその家族が、なおも痛みを分かち合わされているという問題があります。

そして、平成20年度は、直方市において介護保険事業計画の最終年度にあたり、また、障害者自立支援法の見直しに伴って、直方市障害者福祉基本計画の中間見直しが行われるなど、福祉施策にも大きな動きがあります。

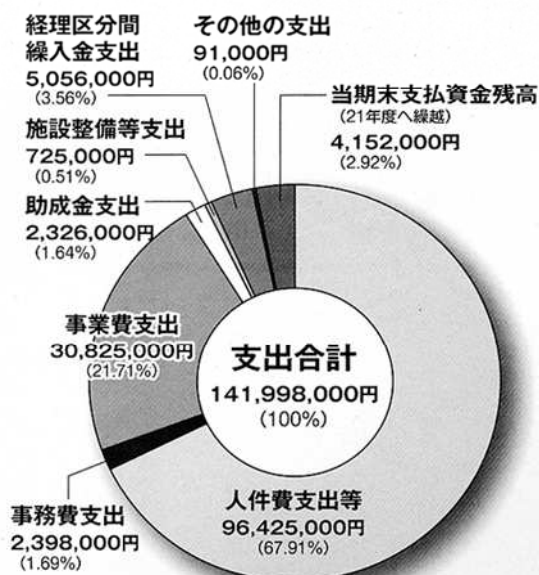
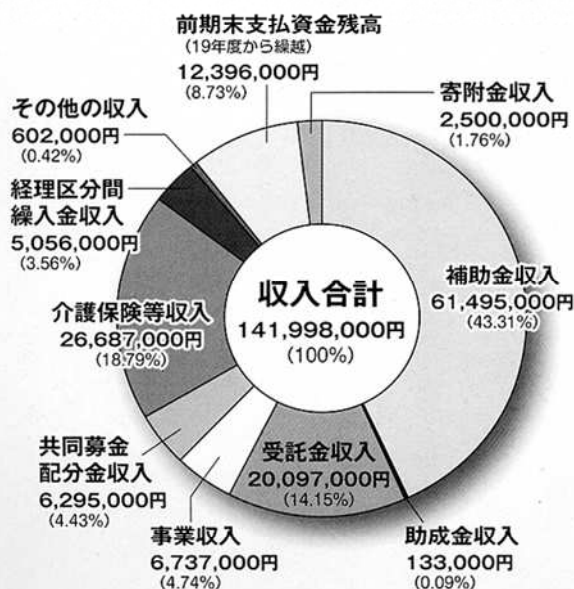
従って、福祉関連計画の推進をはじめ行政施策に積極的に参加・参画するとともに、社協活動の原点に今一度立ち返って、地域に潜在している問題の掘り起こしやその問題の市民との共有、解決のための、行政、関係団体、市民との連携と役割分担、そして現在推進中の各種事業の充実・発展を図り、誰もが暮らしやすいまちづくりに邁進します。

重 点 推 進 項 目

- 1 総合福祉センター運営の抜本的見直し
地域福祉の拠点としてのあり方検討
- 2 地域福祉に対する理解の促進と参加・参画の喚起
地域福祉セミナーの充実や小地域ネットワーク活動等の推進
- 3 新たなニーズの発掘と地域福祉の推進役としての政策提言
福祉ニーズ調査等の分析結果の公表と課題解決方法の積極的提案など
- 4 自主財源確保策の検討、実施
- 5 共同募金改革への柔軟な対応

予 算

※1の経理区分間繰入金収入と※2の経理区分間繰入金支出は当会内部における移動



この社協だよりは、赤い羽根共同募金の配分金で作成しております。

地域の輪

「健康教室と楽しい集い」開催

西校区社会福祉協議会

平成19年12月9日(日)、西校区公民館連絡協議会と共催で、福祉入門教室「健康教室と楽しい集い」を開催し、74名の

方が参加された。日頃の運動不足とストレス解消や、相互の親睦と地域の連帯を密にし、昼食やカラオケを通して1日を楽しい集いにする目的である。

午前9時より直方市総合福祉センター集会室において、直方市保険課職員を講師に迎え、室内で椅子を使って出来る簡単な健康体操や相談を、リラックスの出来る音楽を流しながら、小休止を入れて1時間25分行った。

午前10時30分より会場を山部一区公民館に移動して、午後3時まで昼食を囲みながら、お互いの親睦を深め、カラオケや抽選会などを行い楽しい1日を過ごしてもらった。

また、今回は地域消防団幹部も出席し「地域福祉・地域防災は自分達の手で進めよう」を合言葉に今後も努力することを確認し、地域住民のつながりの大切さを改めて感じることが出来た。



「ふれあい昼食会」開催

感田校区社会福祉協議会

平成20年2月24日(日)、80歳以上の独り暮らしの方をお迎えして、感田三區公民館で感田

小学校、直方第二中学校、大和青藍高校の児童・生徒協力のもと、「ふれあい昼食会」を開催し、116名の参加となり、盛大な会となった。

中学生のハンドベル演奏では、高齢者も一緒になって演奏に参加した。

北九州市職員の物まね、漫才では、全員がジョークに笑いを誘われた。

大和青藍高校調理科の生徒から美味しい昼食を作って頂き、食後は、メニューのことや高齢者の毎日の食事について先生から話を聞いて頂いた。高校生が心を込めて作った昼食を、お年寄りには美味しそうに笑顔で、中学生は食欲旺盛に食べていた。

この事業は、単に高齢者のためだけにあるのではなく、人生経験豊かな高齢者から学ぶ機会が少ない子どもたちにとっても貴重な経験となり、まさにお互いが主役の1日であった。



図書室 暴走老人

著者 藤原智美

発行者 木俣正剛

発行所 文芸春秋

定価 1050円

「暴走老人!」エッ!と疑いなくなる様な題名、現代荒れているのは実は若者だけではない、何と高齢者、急激な社会変化、情報化社会の中で、とり残されそうな不安と焦燥感。リタイヤした新老人は新しい目標を目指した者ばかりではない。

かつてはマイホームを目指し、郊外で子育てを終え、やがて次世代が次々に消え、行き着いたところは個である。この孤独の中で、それを食い止める共同性は、地域のどこにも見当たらない。その中で、キレやすくなった高齢者が増えている。この叫びは、彼等の防壁なのかも知れない。又、警笛でもあると本書は教えている。

私は別世界を見る思いで一気に入にこの本を読んだ。そして大きな局面に体ごとぶつけられた思いがした。今後次々に生み出される新老人、その対策は行政や地域の有志によって徐々に進められていくが、もっと加速しなければと心あせる思いである。

日常生活自立支援事業の ご・案・内

平成20年4月から「地域福祉権利擁護事業」の名称を「日常生活自立支援事業」に変更しました。

▶ 日常生活自立支援事業ってなに？

住み慣れた地域で安心して暮らせるように、認知症、知的障害、精神障害などで判断能力が不十分なため、日常生活に困っている方に、福祉サービスの利用や日常的な金銭管理のお手伝いをします。



▶ どうすれば利用できますか

まずは、お住まいの市町村社会福祉協議会にお気軽にご相談ください。



▶ お問い合わせ 直方市社会福祉協議会

【住 所】直方市山部616-145

【電 話】0949(23)2551

【FAX】0949(23)2552

登録ヘルパー 大募集！

- ◆ 資 格 / ・ヘルパー2級以上
・ガイドヘルパー養成研修修了者
- ◆ 時 間 / ・早朝7:00～8:00
・夜間18:00～21:00
・土日祝日
・ガイドヘルプのみ



◆ 賃 金 (時 給) /

	日 中	夜 間
生活援助	1,000円 → 1,200円	
身体介護	1,550円 → 1,860円	
ガイドヘルプ	1,400円	

● まずはお気軽にお電話下さい。 ●
(平日9:00～17:30)

直方市社会福祉協議会ホームヘルプサービス

担当：立石、清田 【電話】0949(29)5080

●永満寺 藤井 裕基様 ●下新入 猪原 清博様 ●感田 市岡 千司様 ●植木 佐藤 初代様 ●下境 岡崎 秀行様 ●津田 安部 富美子様 ●下境 福原 眞理菜様 ●頓野 巨知 ツヤコ様 ●植木 松尾 英樹様 ●直方 牛尾 龍喜様 ●植木 堀江 嘉子様 ●上新入 前田 重成様 ●頓野 吉村 トミ子様 ●上新入 田代 フミコ様 ●感田 中間 泰子様 ●上境 今畑 博様 ●下新入 高島 秀一様 ●下境 廣川 俊寛様 ●上頓野 田中 捷代様 ●頓野 坂田 保子様 ●感田 前田 千鶴子様 ●下境 松本 フミエ様 ●中泉 堀川 幸市様 ●下新入 竹松 孝子様 ●植木 井口 玲子様 ●植木 岩熊 富佐恵様

香典返し寄付金

ご寄付ありがとうございます。
ごございます。
平成20年2月4日～平成20年6月2日
(承諾された方のみ掲載、敬省略)

●東京 中野 榮七様
●(財)東京メソニック協会様

一般寄付

●福岡市 山下 敬治様 ●上境 渡辺 哲也様 ●下新入 中野 良子様 ●頓野 濱田 昇様 ●上新入 笹川 小夜子様 ●感田 大浦 由子様 ●永満寺 谷口 順一様 ●前原市 柿原 久様 ●上頓野 河江 正則様 ●神正町 石田 一三様 ●下境 福原 登司子様 ●中泉 奥田 幸子様 ●感田 山本 雄一様 ●中泉 前平 サカエ様



第33回よこいと運動会開催

気持ちとは若くても体が付いて行かないとは、よく言ったもので、大玉転がしや、パン食い競争が始まった競技では、正に障害者も健常者も差がない。

市長を始め、多くの来賓者の参加を得て、今年も357名の参加で楽しく、賑やかな「よこいと運動会」が開催されたが、若い高校生達を除けば、誰がボランティアか解らないほど、参加者みんなが一体となった大会であったような気がした。

それほど難しい競技ではないのだが、参加した誰もが真剣なのが、いい、だから怪我も無くてすんだ。時間の関係もあって、各競技の出場者が限られているから、出たくても出られない人もいたのではないだろうか。

ほんのちよつとだけでいい、出来る人が、出来なくて困っている人の手助けをする。「これだけで世の中、ずいぶん明るくなるんだがなあ！」最後に皆で踊った「世界に一つだけの花」のようにお互い強く結ばれた手と手の輪がぐんぐん大きくなって欲しいものだ。お互いに力強く生きていく力をもらった運動会だった。

全員参加の玉入れ競技



全員で最後に踊った「世界に一つだけの花」



楽しく体と頭を動かしませんか！

にこにこ教室

毎週水・木・金曜日、直方市総合福祉センターで身近なものを使って脳トレ・ニング、ゲームなど楽しくおしゃべりしながら活動しています。

参加者の山本さん(79歳)は、「センターのお風呂に入り体操をしたその日は、体調がとて良いです」。徳井さん(79歳)は、「なるべく週3回参加するようにしています。先生が明るく楽しいのでこれからも続けたいです」とのこと。

【お問い合わせ】直方市総合福祉センター

【電話】0949(24)9030

【住所】直方市山部616-145



無料相談実施中

なつこはなまわい相談べたやう

●健康相談

◇毎月第2火曜日と第4金曜日

◇13時～14時頃

◇直方市総合福祉センター内 ※西尾病院、筑豊病院の先生が相談に応じてくれます。

●認知症相談

◇毎月第4水曜日

◇13時～16時

◇直方市総合福祉センター内 ※「認知症の人と家族の会直方」が相談に応じてくれます。

●相談問い合わせ

【住所】直方市社会福祉協議会
直方市山部616-145

【電話】0949(23)2551

編集後記

今号から、タイトルの一部である「少数者」の文字を外しました。

「少数者」は、社会的弱者と呼ばれる方々の声に耳を傾け、様々な活動に取組み、多数者社会の弊害やゆがみに対し社会に働きかけ、よりよい社会や人間関係を築いていくことの思いからつけられたものです。

しかし、「少数者」がタイトルにあることで、わかりにくい、イメージが暗い、などの声もあり、市内の各世帯に届く広報啓発誌なのに、読む人が「少数」になってはいけない。表紙を見たら次のページを開いて欲しいとの思いから、カラー化・増ページのこの機会に外すこととしました。

社会福祉協議会の活動は、「少数者」の視点から出発して、地域住民と共に福祉のまちづくりを進めて行くことが重要な役割です。したがって、直方市社会福祉協議会の基本姿勢が変わるわけではありません。

今後は住民の方々により親しみやすい名前も考えていきたいと思っています。皆様のご理解をお願い致します。